



# 「お薬手帳」を活用した 支援が必要な 在宅患者へのサポート事業

～住み慣れた我が家で安心して暮らし続けるために～

## サポート事業の概要

皆さんが住み慣れた我が家で安心して暮らしていけるよう、専門職と市が連携し、患者さんやその家族もネットワークの一員となった、「お薬手帳を活用した在宅患者の薬の管理のしくみづくり」をすすめています。

在宅で医療を受ける皆さんをサポートするため、現在「伊賀市オリジナルお薬手帳カバー」の配布と合わせて、患者さんの緊急連絡先や、医療や介護の事業所名、専門職による気づきのメモなどが記入できる「情報カード」をお薬手帳カバーに入れる取り組みを行っています。

また、専門職間で患者さんの情報を共有するための「多職種連携のための連絡票」を作成し、さらなるサポートにつながる取り組みもすすめています。

## お薬手帳はいつも携帯！

お薬手帳は、患者さんをサポートするための大切な情報です。

この取り組みをより良いものにするためにも、お薬手帳は1冊にまとめ、アレルギーや薬による副作用などがあれば記入し、病院や診療所を受診する時はもちろん、普段外出する時にも携帯してください。

## お薬手帳を提示しましょう！

処方された薬の記録と合わせて、お薬手帳に記入された専門職によるアドバイスや情報カードを基に、医療や福祉、介護の関係者で情報を共有

すること、より良い支援につなげることができます。病院や診療所、薬局へ行った際にはお薬手帳を忘れずに提示しましょう。

## お薬手帳カバーをご活用ください

■お薬手帳カバーに入れるもの

- ・お薬手帳
- ・カード型健康保険証、診察券
- ・情報カード(緊急連絡先や関わりのある医療・介護事業所名などを記載したもの) など

## お薬手帳はあなたの健康を守る武器の一つです

救急での受診時など、意識のない状態でも、お薬手帳があれば、既往歴、加療中の疾患などを医師が推察する武器の一つになります。

投薬があった時には処方シールの貼付を忘れないようにし、普段から携帯してください。

また、二代目のお薬手帳カバーは芭蕉さんのシルエットのデザインとなりました。

お薬手帳カバーに入れる情報カードは、医療や福祉、介護の関係者で患者さんの状態を把握するツールとして大切なものです。家族の人も普段の気づきを記入してください。



伊賀医師会 猪木 達 会長

# 専門職のみなさんの声 お薬手帳カバーや 情報共有ツールが より良い支援につながります



## 薬剤師

複数の医療機関とスムーズな  
情報共有ができました！

専門職同士で情報を共有するための「多職種連携のための連絡票」を使うことで、院内処方  
の医師と院外処方の医院の医師双方に情報共有  
し、重複処方を解消することができました。

## 訪問 看護師

血圧などを記録することで  
診察がスムーズになりました！

訪問看護で測定した血圧や血糖値を1カ月分  
記入したお薬手帳を医師や薬剤師が見ることで、  
現在の詳しい状況を把握してもらえるようになり  
ました。

## 訪問 リハビリ

「どこにしまったかな？」  
が減りました！

お薬手帳カバーにいろいろな情報が集約され  
たので、病気や体調の確認が以前に比べてしや  
すくなりました。

利用者さんからもお薬手帳など受診の記録を  
探す手間が減り、「どこにしまったかな？」が  
減ったとの声を聞きます。

## ケアマネ ジャー

タイムリーに介護保険サービスの  
調整ができました！

在宅介護の支援計画（ケアプラン）に、訪問  
看護やデイケア（通所リハビリテーション）な  
どの医療系サービスを位置付けるには主治医と  
の連携が不可欠です。「多職種連携のための連  
絡票」の活用で、やりとりがしやすくなり、タ  
イムリーに必要なサービスの調整ができました。



▲三代目のお薬手帳カバーと情報カード

## ケアマネ ジャー

本人や家族との会話が  
はずみました！

お薬手帳カバーがあることで、お薬手帳・健  
康保険証・介護保険証・診察券などを紛失する  
ことなく管理されるようになりました。

ケアマネジャーが自宅訪問した際も、気軽に  
見ることができ、受診の間隔や受診先、処方  
の変更などが確認しやすく、本人や家族との会  
話がはずむきっかけとなりました。緊急時にも多  
くの場面で役立っています。

### 【問い合わせ】

医療福祉政策課

☎22-9705 FAX22-9673

✉ iryoufukushi@city.iga.lg.jp

